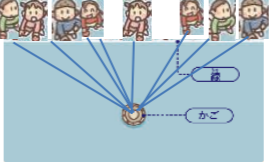
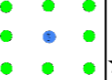
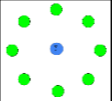
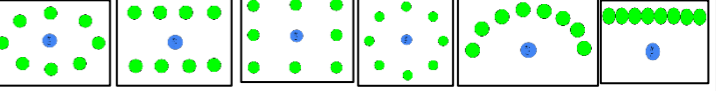


3. 本時の指導 (全18時間 本時15/18)

- (1) 目標 問題文から数量の関係に着目し、「1つ分の数」と「いくつ分」を正しくとらえ、言葉や式、図で説明することができる。
- (2) 評価規準 **思・判・表** 問題文から数量の関係に着目し、「1つ分の数」と「いくつ分」を正しくとらえ、言葉や式、図で説明している。
- (3) 本時の展開

3. 本時の指導 (全9時間 本時1/9)

- (1) 目標 1点からの長さに着目して、円の構成の仕方や性質について考え、説明できる。
- (2) 評価規準 **思・判・表** 1点からの長さに着目して、円の構成の仕方や性質について考え、説明している。
- (3) 本時の展開

○留意点 □評価	学習活動 (★発問 ・予想される児童の反応)	学習活動 (★発問 ・予想される児童の反応)	○留意点 □評価
<p>○問題をノートに書かせ、全員で読んだ後、問題を比べて気づくことを黒板に書くように伝える。</p> <p>○気づいたことの中で式の話が出たら、ノートにそれぞれ式を書かせる。その後、5種類の式カードが入った封筒を学習リーダーに渡し、黒板に貼るように伝える。どの式がどの問題なのか当てはまるものをみんなで話し合わせる。 (用意する5種類の式カード) <b>2×5</b> <b>2×5</b> <b>5×2</b> <b>5×2</b> <b>2+5</b></p> <p>○児童の困り感からめあてを一緒に考える。</p> <p>○パソコンで丸の図を操作させる。考え終わった児童は、説明をジャムボードの付箋に書くように伝える。</p> <p>○納得していない児童の考えにのっかりながらゆさぶりをかける。</p> <p>○全体で検討し合った後、ノートに正しい図と式を書かせる。</p> <p>○まとめは、リード文を提示し続きを自分達で考えさせる。</p> <p>○適用問題でも、図を使って問題を考えるように声掛けする。 <b>思・判・表</b> 問題文から数量の関係に着目し、「1つ分の数」と「いくつ分」を正しくとらえ、言葉や式、図で説明している。(ノート・クロームブック・行動観察)</p> <div data-bbox="172 1822 655 2049" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(適用問題)</p> <p>①りんごのはこが、3はこあります。1はこ4こ入ります。ぜんぶでなんこでしょう。</p> <p>②あめを1人に3こずつ4人にくばります。あめは、ぜんぶで何こ入りますか。</p> </div>	<p><b>1. 課題をつかむ。</b></p> <div data-bbox="685 411 1359 499" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①えんぴつを1人に2本ずつ、5人にくばります。えんぴつは、ぜんぶで何本入りますか。</p> </div> <div data-bbox="685 516 1359 604" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②えんぴつを2人に、5本ずつくばります。えんぴつは、ぜんぶで何本入りますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あれ、数字がいっしょだよ。</li> <li>・聞かれていることも同じじゃない?</li> <li>・それなら同じ式じゃない?</li> <li>・どっちも<math>2 \times 5 = 10</math>だよ。</li> <li>・いや、待って。②は<math>5 \times 2 = 10</math>じゃないの?</li> </ul> <p><b>2. 式と問題を結び付けて話し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ式が2つずつ入っているよ。</li> <li>・じゃあやっぱりどっちも<math>2 \times 5</math>じゃない?</li> <li>・でも「ぜんぶで」ってあるからたし算もありえるよ。</li> </ul> <p><b>3. めあてを考える。</b></p> <div data-bbox="685 1014 1032 1066" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どの式になるのかな。</p> </div> <p><b>★何を使って考える?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図を書くと分かりやすい。</li> </ul> <p><b>4. 自力解決をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人分の数が2本で、それを5人にくばるから・・・</li> </ul> <p><b>5. ペアで説明し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①は、1人に2つずつを5人分だから図で表すとこうなるよ。だから、<math>2 \times 5 = 10</math>だよ。</li> <li>・②は、1人に5つずつを2人分だから図で表すと1つ目とはちがうよ。だから、<math>5 \times 2 = 10</math>だよ。</li> </ul> <p><b>★でも、2つ目の問題は2が初めに出てきて、5が後に出てきているよ。問題の順番に式を立てると<math>2 \times 5</math>だよ?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやいや、1つ分の数が5本で、それが2人分あるから<math>5 \times 2 = 10</math>でまちがいないよ。</li> </ul> <p><b>★今日みたいにどっちの式かまよった時どうしたらいい?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が1つ分の数で、何がいくつ分かをしっかりさがす。</li> <li>・1つ分の数<math>\times</math>いくつ分の式になるようにする。</li> <li>・まよったら図を書いて考える。</li> </ul> <p><b>7. まとめをする。</b></p> <div data-bbox="685 1854 1389 1938" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>式を立てるのにまよったら、(1つ分の数といくつ分が何かをしっかりと考えて、「1つ分の数」<math>\times</math>「いくつ分」のかけ算の式を作るといい。)</p> </div> <p><b>8. 適用問題をする。</b></p> <p><b>9. ふりかえりを書く。</b></p>	<p><b>1. 課題をつかむ。</b></p> <div data-bbox="1537 411 1893 562" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>□人で玉入れゲームをします。1人が1こずつ玉を持って、線のところからかごをめがけて同時に玉をなげます。玉をかごに入れた人がかちです。</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・全部で8人いるよ。</li> </ul> <p><b>★みんなならどこから投げたい?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真ん中にいる人のところから投げたい。</li> <li>・だって、かごまで近いもん。</li> </ul> <p><b>★近いってどういうことかな?問題の絵に線を引いてみよう。</b></p> <p><b>★このままじゃ投げる場所の取り合いになるね。どのように並んだらずるくないのかな?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かごまでの長さを同じにすればいいよ。</li> </ul> <p><b>2. めあてを考える。</b></p> <div data-bbox="1537 982 2166 1066" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かごまでの長さを同じにするには、どのようにならぶといいのかな。</p> </div> <p><b>3. 自力解決をする。(8人の場合)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっこの人が前に行けばいいから・・・</li> </ul> <p><b>4. 全体で検討し合う。</b></p> <p>(円の形になっていない場合)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・四角い形にならぶといいよ。</li> </ul> <p><b>★かごまでの長さに線を引いて確かめてみよう!</b></p> <p>(きれいな円の形になっていた場合)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな丸にならぶといいよ。</li> <li>・これなら長さがいっしょやもんね!</li> </ul> <p><b>★長さがいっしょなら、正方形でもいいよね? 全ての辺の長さが一緒だもんね!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちがうよ。かごまでの長さのこと!</li> </ul> <p><b>★まるならこんな形でもいいよね!(楕円)</b></p> <p><b>5. 人数を増やして考える。(16人の場合)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと丸い形に近づいてきたよ。</li> <li>・人数が増えると、さらにまるい形になるんだね!</li> </ul> <p><b>6. 円という言葉と意味を確かめる。</b></p> <p><b>★3人が見つけてくれた形を「円」と言います。では、円とはどのような形の事かな?説明して下さい。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円とは、真ん中からはしまでの長さが同じになるようにかいたきれいなまるい形の事です。</li> </ul> <p><b>7. まとめ</b> <small>かごまでの長さを同じにするには、(きれいなまるい形(円)になってならぶといい)</small></p> <p><b>8. これって円かな?クイズをする。</b></p> <p><b>9. ふりかえりを書く。</b></p>	<p>○自分だったらどこから投げたいか考えさせ、問題の絵に書き込ませる。</p> <p>○問題場面を確実に把握させるために、それぞれの人がいる場所からかごまでの長さに線を引かせる。</p> <p>○問題とめあてをノートに書いた人から絵をノートに貼るよう指示する。</p> <p>○クロームブックを用いて、人に見立てた点を動かして考えさせる。</p> <p>○黒板の前に集まり、それぞれのパソコンを見せ合いながら3人で磁石を動かして考えさせる。理由も黒板に書くように伝える。 (考えられる並べ方)</p>  <p>○楕円型の円をわざと書き、きれいな円でないとかごまでの長さが同じにならないことに気付かせる。</p> <p>○全体で検討し合う際に、かごまでの長さを同じにするには、「きれいなまるい形にする」必要があることを押させる。</p> <p>○円の意味を教えるのではなく、自分達の言葉で表現させる。</p> <p>○まとめは、リード文を提示し続きを自分達で考えさせる。</p> <p><b>思・判・表</b> 1点からの長さに着目して、円の構成の仕方や性質について考え、説明している。(行動観察・クロームブック)</p>